

原油価格の見通し

～根強い供給懸念を背景に、原油価格は高値圏で推移～

1. 価格動向

地政学リスクの高まりを受けて上昇後、下落

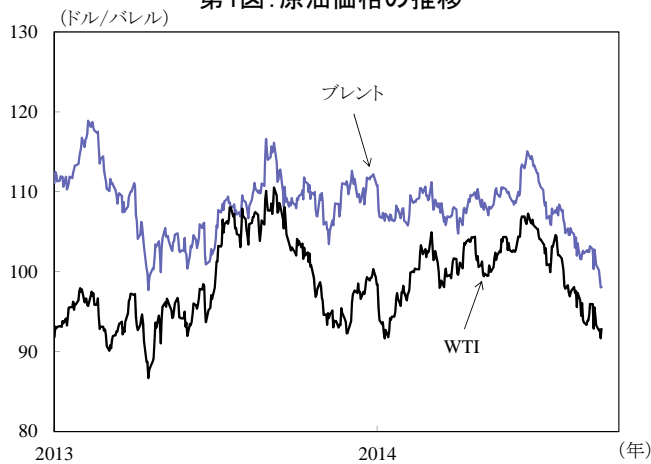
WTI（期近物）は6月中旬以降、イラク情勢緊迫化を受けて上昇し、1 バレル＝106 ドル近辺で推移した（第1図）。しかし7月2日、リビアで反政府勢力が制圧していた主要石油ターミナルが同国政府に引き渡される決定を受けて供給再開見通しが高まったことから、WTIは軟化した。7月下旬には、ウクライナ情勢緊迫化を受けてWTIは一時104ドル台に上昇したが、その後はリビアの供給再開や欧米の経済指標、米国の原油在庫統計が売り材料となって下落し、足元では92ドル近辺で推移している。

北海ブレント（期近物）はWTIと並行した動きとなっており、ブレントとWTIの価格差は約6～8ドルとなっている。

投機筋の買い越し額は7月以降、減少

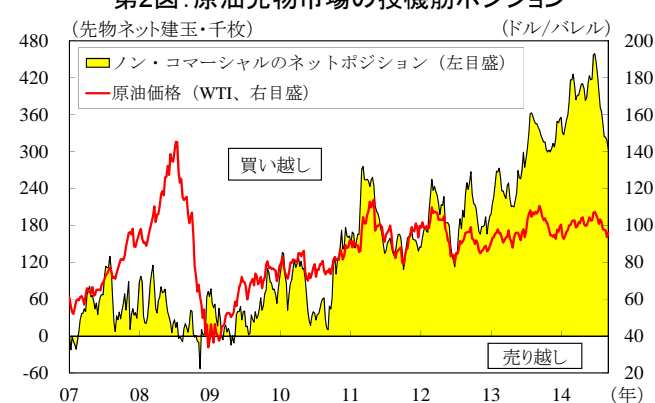
原油先物市場における投機筋の買い越し額は、ウクライナやイラク、リビアの情勢緊迫による地政学リスクの高まりを受けて過去最高水準で推移していたが、7月以降はリビアの供給再開見通し等、供給懸念がやや緩和したことを背景に、買い越し額は減少が続いている（第2図）。

第1図：原油価格の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：原油先物市場の投機筋ポジション



(注) ノン・コマーシャルとは、原油生産や精製に従事しない業者のこと。

1枚＝1,000バレル。

(資料) 米商品先物取引委員会、ニューヨークマーカンタイル取引所資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 需要・供給動向

上半期は供給超過

上半期は欧米の原油需要が減少した一方、米国やカナダの原油生産が増加した結果、世界の需給バランスは供給超過（＝在庫積み増し）となった（第3図）。

世界の原油需要の伸びは前年と同程度の見込み

国際エネルギー機関（IEA）によれば、今年は新興国の原油需要が堅調な伸びとなるが、先進国は小幅減少が見込まれる結果、世界全体では前年比+1.1%と昨年（同+1.2%）と同程度の伸びが予想されている。2015年については、アジアや中東など新興国の原油需要が好調に推移するとみられ、世界の原油需要は前年からやや伸びを高めるものと見込まれている。

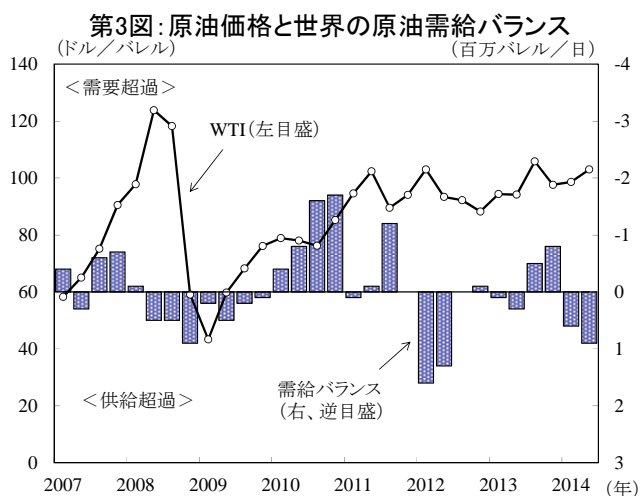
イラクとリビアの生産動向を注視

供給についてみると、石油輸出機構（OPEC）ではイラクとリビアの生産動向がポイントである。イラクは、情勢緊迫の中で北部油田は生産停止状態だが、南部油田の生産には影響が出ていない模様であり、これまでのところ国全体として産油量の大幅減少は避けられている（第4図）。今後も、情勢緊迫がイラクの原油生産に影響を与えるか否か、注視する必要がある。

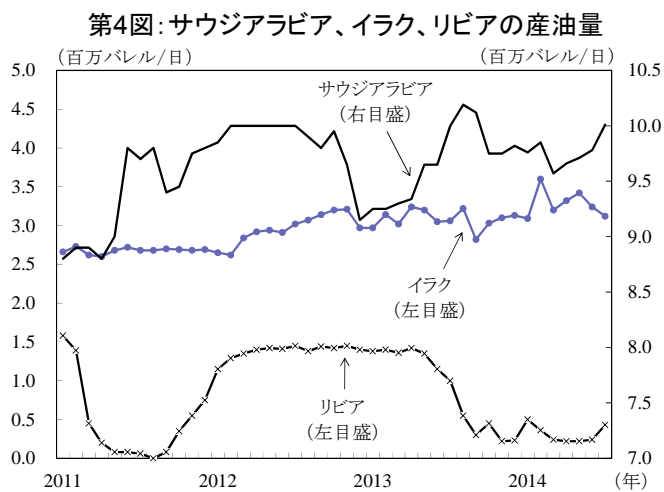
リビアについては、7月初めに反政府勢力が主要石油ターミナルを同国政府に引き渡して以降、生産は回復基調にある。足元では約60万バレル（日量、以下同様）と平時の産油量（約160万バレル）の約4割にとどまっているが、今後の生産回復ペースから目が離せない。OPECはイラクとリビアの動向を踏まえて、生産調整を実施することになるだろう。

非 OPEC の生産拡大が続く見込み

非 OPEC については、米国はシェールオイル増産を受けて7月の産油量が1987年以来の高水準となるなど、好調に推移している。また、カナダのオイルサンドやブラジルの深海油田からの生産も拡大すると予想されており、非 OPEC の生産は2015年にかけて拡大傾向が続くとみられる。



（資料）IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



（資料）IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 価格の見通し

原油価格は四半期平均 97～100 ドル台の推移と予想

世界景気は緩やかな拡大傾向を辿ると予想され、原油需要は堅調な伸びとなろう。供給面では、米国のシェールオイル増産を中心に非 OPEC の生産拡大が見込まれる。OPEC は加盟国の動向を睨みながら機動的に対応するとみられ、OPEC 全体としての生産に大きな変化はないであろう。この結果、需給バランスは緩和した状態が続くとみられる。しかしながら、イラクやウクライナの情勢緊迫を背景に供給懸念が根強い状況が続き、原油価格の下値も限定的とみられる。原油価格は四半期平均 97～100 ドル台で推移すると予想される。

(篠原 令子)

原油価格の見通し

	WTI先物 (ドル/バレル)	前年同期比 (%)
2012/Q1	103.0	8.9%
2012/Q2	93.4	▲8.8%
2012/Q3	92.2	3.0%
2012/Q4	88.2	▲6.2%
2013/Q1	94.4	▲8.4%
2013/Q2	94.2	0.9%
2013/Q3	105.8	14.8%
2013/Q4	97.6	10.6%
2014/Q1	98.6	4.5%
2014/Q2	103.0	9.4%
2014/Q3	100	▲5.5%
2014/Q4	97	▲0.6%
2015/Q1	97	▲1.6%
2015/Q2	99	▲3.9%
2015/Q3	100	0.0%
2015/Q4	97	0.0%
2012年	94.2	▲1.0%
2013年	98.1	4.1%
2014年	100	1.6%
2015年	98	▲1.4%

見通し

(注) 期中平均価格

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。